YAMAHA

ProjectPhone

PJPシリーズ導入事例 23

青山学院大学 様

導入機種 → PJP-25UR(PJP for Mobile)
導入時期 → 2012年3月
基本構成 → iPadやiPhone、PCとPJP-25URを接続しSkype、FaceTimeを用いてWeb会議。

開設	1949年
本部所在地	東京都渋谷区渋谷4-4-25
学生数	18,509人(2011年5月)
教員数	1,828人(2011年5月)
URL	http://www.aoyama.ac.jp/

PJP-25URとiPad / iPhoneを活用し、拠点間を結んだ密接なコミュニケーションで産学共同の自由な研究を推進。

PJP導入の背景

複数の拠点にまたがるコミュニケーションを実践しながら研究

- ○青山と相模原のキャンパス
- ○産学共同の人材育成の研究
- ○ゼミの議論を振り返るツール

青山学院大学のヒューマン・イノベーション研究センター(HiRC)は、「人材育成」や「学び」について学部横断・産学共同で研究するために2007年4月に設立されました。研究を推進するうえで、参加メンバーが青山と相模原のキャンパスに分かれ、企業や他大学からも参加することから、密な連絡を取るにはリモート会議が求められます。また、HiRCのミッションも、新しいコミュニケーションを使った新しい学びの研究です。同時に、HiRCのメンバーである社会情報学部の伊藤一成准教授は、ゼミでの議論を後から振り返るツールを探していました。そのような中、伊藤准教授が講演を行った際に、同じ会場でSCSK株式会社がデモしたPJP for Mobileに感銘を受け、ゼミおよびHiRCでの導入を決めました。

PJPを選択した理由

“人に会議がついてくる”自由な利用と、自然に会話できる音質

- ○iPadやiPhoneでのモバイル活用
- ○自然に会話できる音質
- ○教員の予算で購入できる価格帯

HiRCではまず、PJP for MobileをiPadやiPhone、PCに接続し、SkypeやFaceTimeを使ってWeb会議を始めました。従来のTV会議システムは会議室に固定されているため、事前の予約が必要で、また他大学や企業と接続するにも大変な手間がかかっていました。PJP for MobileとiPadを使えば、人のほうに会議がついてくる感覚で、研究室からでも参加できるようになりました。また、PJPの音質のよさや適応型エコーキャンセラーによって、聞き取りにくさやハウリングなどから開放され、自然に会話ができるようになりました。さらに、教員の自由になる予算から何台も購入できる価格帯を生かして、会議室にとらわれない、インフォーマルなコミュニケーションや自由な議論への活用も研究されています。

PJP導入の成果

全員で集まるためのスケジュール調整なしでコミュニケーションが進む

- ○全員が集まれなくても会議できる
- ○マイクを意識せずに自然に会話
- ○他大学や海外との会議にも利用

青山学院大学では、世田谷キャンパスのあった時代から、教員が遠隔講義などを試していました。さまざまなシステムを試してきた経験の中で、PJPによってリモート会議が使えるレベルになったと判断されています。会議では、画像は多少コマ落ちしても、音声は安定して聞こえる必要があります。PJPでは、誰がしゃべったか聞きわけられる音質で、意識してマイクに向いたりせずに自然に会話できる点をご評価いただいています。そして、実際に青山キャンパスと相模原キャンパスの間でiPadを使った会議を導入したことで、全員が1つの会議室に集まれるようスケジュールを調整しなくても会話できるようになりました。今後は、他大学や海外との会議にも導入して、密接なコミュニケーションを模索していく予定です。

PJP-25URの特長

①小型・軽量で持ち運びが簡単
PJP-25URはB5ノートにすっぽり隠れるサイズで、重さも570グラム。持ち運びが容易で、様々な場所から手軽にWeb会議に参加できます。

②可動式マイクアームで、多彩な使い方
マイクアームを動かし収音範囲を変更することで、様々なシチュエーションに対応。1～4人程度であれば、着座位置に合わせた使用が可能です。

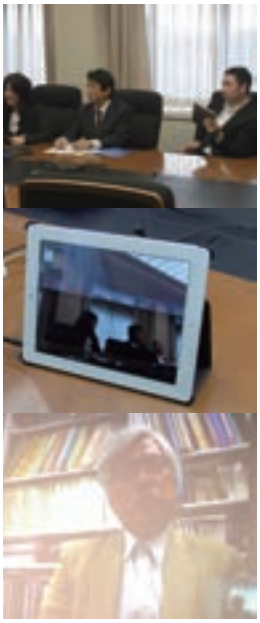
③ACコード要らずのUSBバスパワー
USBケーブルでPCと接続するだけで、Web会議用マイクスピーカーとして使用可能。シンプルな接続で、使い勝手の良さも抜群です。

PJP-25URの概要

●寸法／229(幅)×152(奥行)×34(高さ)mm　●重量／570g　●電源／USBバスパワー駆動、セルフパワー駆動(ACアダプタ別売)　●用途／会議用マイクスピーカー
●音声インターフェース／USB2.0 Full Speed、アナログ入出力各1系統(ステレオミニジャック)　●周波数帯域／300～20000Hz
●本体スピーカー／2個、モノラル再生、ステレオ再生(スピーカーのみ使用時)　●本体マイク／アレイマイク(4個*3列)
●その他機能／適応型エコーキャンセラー、マイクアレイ制御、スピーカーステレオ再 生 、ファームウェアリビジョンアップ(PCよりUSBで転送)

PJP for Mobile とiPad を接続して、キャンパスや大学、企業の枠を超えた、場所を問わないモバイル的な遠隔コミュニケーションで会議やコミュニケーションのありかたが変わる

お客様の声



PJP for Mobile、iPad、Skypeを使って青山と相模原で遠隔会議をしている様子。佐久田教授（写真下）は相模原の研究室から参加しています

遠隔コミュニケーションの敷居が下がってコミュニケーションが変わります

HiRCは、人材育成と、ICTを効果的に活用した研究と教育の向上を目指して設立されました。そのために、分野の異なる教員や、異なる大学、企業の人が集まって、「学び」について研究しています。それぞれ場所が違うので、1か月に1回会うだけでも大変です。しかし、いままでのTV会議システムは、大規模な設備を会議室に備えて、予約をとって使うもので、密接なコミュニケーションには向きませんでした。また、意思決定のための会議とは違い、研究のディスカッションは自由な会話が重要です。PJPによって遠隔コミュニケーションの敷居が下がれば、文字だけでなくリアルに話す機会が増えるので、会議の進め方もより協働的にダイナミックになります。そうしたコミュニケーションの変化もHiRCの研究対象です。（玉木様）

青山学院大学 経営学部 教授
青山学院大学
ヒューマン・イノベーション研究センター所長
玉木欽也 様

青山学院大学
社会情報学部 准教授
伊藤一成 様

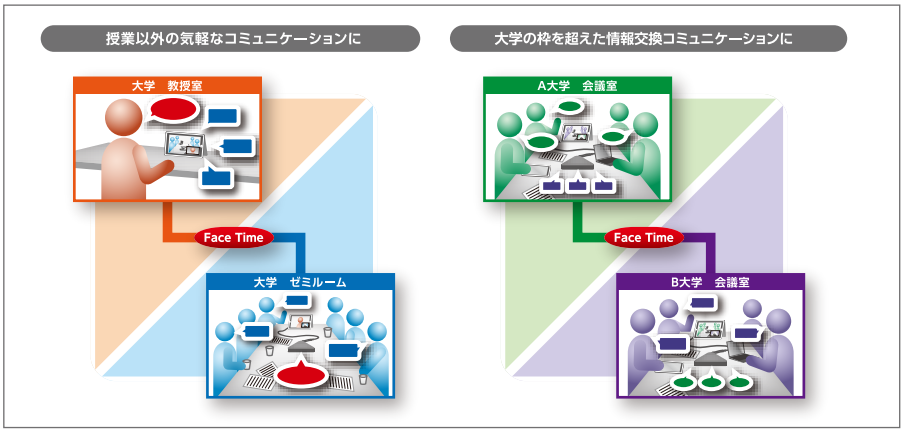
会議室固定ではなくどこでも人のほうに設備がついてくるモバイル的なコミュニケーションが実現しました

最初にPJP for Mobileのデモを見て、これだと思いました。PJPであれば、場所が固定ではなくてどこでも使えて、人のほうに設備がついてくるようなモバイル的なコミュニケーション手段となります。会議のほか、ゼミで学生がグループディスカッションをするときに、記録を残すのにも使おうと思います。iPadにPJPをつないで録音すれば、そのままEvernoteやDropboxに送れるので、後から自分達でまとめてほしい。PJPなら、空いた教室がそのまま会場になります。みんなでマイクに向いたりしなくていいので、良質なディスカッションが自然に進むのを期待しています。（伊藤様）

PJP for Mobile とは

SCSK株式会社が販売している「PJP-25UR」「ACアダプター」「専用ケーブル」のセットの名称です。（スマートフォンは含みません）

お問い合わせ先：
SCSK株式会社
ITプロダクト＆サービス事業本部
ネットワークプロダクト部 営業推進課
メールアドレス: rt-info@ml.scsk.jp



Microsoft、Windows およびWindows のロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

⚠ **安全に関するご注意** ●本製品の設置、ご使用に関しましては取扱説明書などに記載されている注意事項や禁止事項をよくお読みの上、必ずお守りください。

YAMAHA
感 動 を ・ と も に ・ 創 る

プロジェクトフォンお客様ご相談センター
■ お電話によるお問い合わせ先 ☎03-5651-1838 ■ FAXによるお問い合わせ先 053-460-3489
ご相談受付時間 9:00～12:00　13:00～17:00(土・日・祝日、弊社定休日、年末年始は休業とさせていただきます。)
◎会議システム プロジェクトフォンの最新情報はこちら http://www.yamaha.co.jp/projectphone/

このパンフレットは無塩素漂白（ECF）パルプを使用しています。
このパンフレットは再生紙と大豆油インクを使用しています。

製造元 ヤマハ株式会社 サウンドネットワーク事業部　〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1　2012年6月作成　カタログコード PJPD0023